

平成 29 年度 第 2 回 評価委員会の意見要旨

1. 小項目評価について

第 1-1-(1) 救命救急センターを含む救急医療

- ・前年度と比べて実績もよくなっており、評価を下げる理由はなく、高く評価できる。

第 1-1-(2) 小児医療・周産期医療

- ・非常に努力し、取り組んでおり、法人自己評価に対してもう少し高く評価してもよい。

第 1-2-(1) がんへの対応

- ・十分な取り組みをされており、委員会の評価としても評価 4 もしくは 5 で迷うところはあるが、法人の方で非常に高い志をもたれているということで、法人自己評価を尊重する。

第 1-2-(2) 脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病への対応

- ・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病については地域でどのような役割を担っていくのか。
→ (法人回答)
高度医療を担う病院として、脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病の中でも特に合併症をお持ちの方の診療を行うことが役割だと考えている。
- ・医療圏の中で総合的な役割を担っているのであれば高く評価できる。またクリニカルパスについてもパス自体の課題もあるので、やむを得ない部分がある。

第 1-3-(1) 医療安全対策の徹底

- ・インシデント、アクシデントについて内容はどうなっているか。また、それらに対して、どのような対策をとられているか。
→ (法人回答)
転倒・転落に関して言えば、椅子の高さに調整するなどの対策に取り組み、転倒・転落の件数も減少している。
薬剤に対するインシデントは減少した。平成 28 年度から薬剤師をセンターに配置し、看護師と一緒に病棟ラウンドすることによって、薬の配置などの見直しを行い、薬の取り間違いや渡し忘れを防止した。加えて、手術に抗血小板剤を外来時点で処方しないように取り組み、インシデントの防止に取り組んだ。

第 1-3-(2) 医療の質の向上

- ・平成 29 年度からセンター化構想の推進に取り組んでいるということで、来年は外来患者の実際の反応など取り組み結果が分かるものについても記載していただきたい。

第 1-3-(4) 患者の視点に立った医療の実践

- ・関連指標の窓口寄せられた相談件数が 2 万弱となっているが、経年で見た時に、何か質的に変化があったことを分析されているのか。
→ (法人回答)
相談内容については分析しており、以前多かった金銭的問題や医療トラブルよりも、がんに対する相談件数が 28% ほど増え、在宅医療に向けての相談件数も増えている。
- ・相談内容に対してどのように対応されたか、帰結を集約し、見える化できるようにした方が実績として分かりやすい。

第1-3-(5) 患者サービスの向上

- ・関連指標の投書箱に寄せられた件数について、内容の分析はされているか。
→ (法人回答)
平成28年度にいただいた363件のご意見の主な内訳は、感謝のお言葉が87件、施設設備に関するご意見が99件、接遇面に関するご意見が81件、制度に関するご意見が49件であった。そのうち対応できたものが130件、対応検討中が76件、対応できなかったものが83件であった。
- ・満足度調査については、委託業者に任せていないのか。
→ (法人回答)
平成28年度に実施した分については、集計、分析を委託業者に行ってもらい満足度調査を行った。委託業者に依頼する分については他院の比較することができるので、定期的に行っていこうと考えている。

第1-4-(2) 地域での医療従事者の育成

- ・医師以外の論文掲載はどうされているか。看護師は出前でレクチャーという取り組みをされているが、医師は何か取組みをされているのか。
→ (法人回答)
医師以外の学会発表は、看護局は41件、薬剤科が24件、臨床検査技術科が10件であった。医師の取り組みについては、昨年度より堺市教育委員会と協力して、教頭、養護教員を対象にがんについて講演をさせていただいた。
- ・論文掲載について学会発表とおっしゃったが、実際に論文掲載されたものはあるか。次年度以降はこういったことも成果として記載されて方がよいように思う。
→ (法人回答)
医師は10件程度。看護は5件、メディカルは6件となっております。
- ・出前でレクチャーについて、参加された方にアンケートを実施するなど、フィードバックができるよう工夫されているか。
→ (法人回答)
出前でレクチャーについては、平成28年度の後期に開始したため、評価という点までには至っていないが、地域の学習活動（地域医療機関向け急性期看護コース、がん看護コース）についてはアンケートを実施し、いただいた意見に対して今年度改善に取り組んでいる。介護施設向けに行っているスキルアップセミナーについては、施設長や参加者に対してアンケートを行った。また、中学校にて、がん教育セミナーを行い、アンケートを実施すると、むしろ教諭ががんについて知る機会がなかったとの回答が多かったため、今年度から教諭に向けての活動にも取り組んでいる。実習についても、学生からアンケートをいただき、指導に際しては、カンファレンスにおいて意見をいただいている。
- ・研究については、いかに研究する機会を与えるかだと思う。堺市立総合医療センターではその機会は定期的に与えているように思う。初期研修医に対しては、介護についても適切に教育していると聞いている。その挑戦をおこなっているのだから、高く評価できる。
- ・この項目を、法人自己評価5とするポイントはどこか。
→ (法人回答)
初期研修医の人数が1名増加しており、たった1人という印象もあるかもしれないが、大阪府下全体としては数が減らされている。その中で、堺市立総合医療センターだけが1名増加というのは高く自己評価している。初期研修医については、3年前には最低の7名

であったが、地道な努力で 10 名まで増やすことができたので評価していただきたいと考えている。

- ・他院と比べた時に、この実績は高いものなのか。

→ (法人回答)

初期研修医に限定すれば、マッチング率は大阪府下で 3 位であり、1 位と 2 位に関しては民間病院で、公的病院としては大阪府下 1 位である。初期研修医のプログラムについては、公立病院の中では高く評価されていると感じている。他の公立病院からも視察が来るほど、初期研修については評価されている。

- ・堺市立総合医療センターで学ばれた先生は、地域でも頑張っておられることが多いので高く評価してもよいと思う。

第 1-4-(3) 医療、保健、福祉、教育などの行政全般等との連携と協力

- ・検診の受診者数が示されているが、堺市立総合医療センターでは、どのぐらいを達成目標と考えられているのか。人間ドック受診者数、胃がん検診受診者数が多いようには思わないが、あえてこれを記載したのはどういうことだろうか。

→ (法人回答)

立ち位置としては、公的病院であり市域全体のがん検診率の向上を念頭に置いている。検診については各拠点病院でそれぞれ取組んできた経過があるが、それでは検診率の向上に結び付かなかったため、行政と協力し委員会を設置して、市の下部組織として検診率の向上に助言、勧奨をしていくような体系を構築した。そういった中で、検診についても少しずつでも協力していったことを示したものである。

- ・市立病院の役割として受診者数を上げるよりも、実際の実効性として自分たちが何をすべきか、どういった役割を果たしていくのか明確にされ、どういう方向性で取り組みをして成果をあげられていくのか示されることの方が重要だと思う。本質的な問題は、病院の受診者数を増やすことではなく最終的には堺市のがん受診率が上がったということである。それに対してどうなのかということを考えることが大切ではないか。

第 2-1-(1) 自律性・機動性の高い組織づくり

- ・理事長、院長へのホットラインについて、件数や内容はどうなっているか。また、それによって、どのような効果があったのかプライバシーに配慮した範囲で教えてほしい。

→ (法人回答)

件数は約 20 件あった。組織連携や職場環境に関する意見が多く、それを受けて、今年度からは多職種連携やチーム医療を病院の中心課題として取り組むようにしている。

第 2-1-(2) 質の高い経営

- ・診療科別原価計算書を作成しヒアリングに資料として使用したと記載されていますが、各診療科にとっては非常に意識が高まるものかと思います。何か効果はあったでしょうか。

→ (法人回答)

ヒアリングにおいて、原価計算書は診療科の部長にのみ提示した。診療科の特性を理解してもらい経営参画意識が非常に高まった。

- ・診療科別原価計算書は診療科間の摩擦を生むことにもなるので、使い方が非常に難しいと思うが、どういった使い方をされる予定か。

→ (法人回答)

各診療科の特性を把握してもらう目的で作成したため、診療科別原価計算書をもって各

科を評価することはしていない。診療科を比べるものではなく、経年で診療科の取り組みがどう反映されているか把握するためのものだと考えている。

第2-1-(3) 外部評価等の活用

- ・監事監査を年間 11 回と非常に多く受けられているが、これを受けて具体的に何か解決できたことはあるのか。

→ (法人回答)

監事監査では、業務運営にあたってのリスク検討やリスク回避のために執行部でどういふ議論がなされているのかに着目し指摘をいただいている。特に改善が必要だというご意見に対しては、次回の監査で返答を行っている。例えば、医療安全に関しては、職員により周知するべきとのご意見をいただき、医療安全の取り組み結果を職員が目につく場所に掲示するなど工夫を行った。

第2-2-(2) 働きやすい職場環境の整備

- ・新人看護師の離職率が 0%であったが、何か特別な取り組みをされたのか。

→ (法人回答)

以前より新人研修には力を入れており、平成 28 年度はシミュレーションルームを充実させた。現場での技術的な不安が離職の原因となっていることも多く、時間中だけではなく時間外も使用できるシミュレーターを使って技術をきちんと学べる環境を整備し、教育担当にもまめにラウンドしてもらい、現場で声をかけることに取組んだ。

第3-1 安定した経営基盤の早期確立

- ・経常損失が計画よりも膨らんだのは、特殊要因のためで、これがなければ、ほぼ計画を達成できたと考えてよいか。

→ (法人回答)

当初予算は 4.5 億円の赤字で計画を進め、結果は 8.4 億円の赤字であった。そのうち会計処理方法の変更（残存価額の見直し）による影響が 2.3 億円、マイナス金利による退職給付引当金への影響が 3.3 億円あった。当初予定していなかったこれらの費用 5.6 億円を今年度の赤字 8.4 億円から差し引くと 2.8 億円の赤字となり、赤字幅は計画を下回っている。経常収支は赤字だが、今年度の目標についてはしっかりと取り組んだ。

- ・財務諸表等の 9 頁に記載されている退職給付費用のうち数理計算上の差異は前年度の発生分を当期の費用として処理したものであることから、3.3 億円のうちそれ以外の金額が当年度に対するマイナス金利の影響ということか。

→ (法人回答)

退職給付引当金について勤続年数の増加分についてはある程度見込みをたて試算していたが、それと実際の算定額を差し引きした差異が、マイナス金利の影響によるものである。

- ・診療報酬改定によって、収益に影響があったか。

→ (法人回答)

診療報酬改定によって減収した部分もあったが、新しく施設基準を上げるなどの取り組みを行っており、収支は横ばいまたは数千万円のプラスに推移した。

2. 全体評価、大項目評価について

- ・記述内容等に関しては、特に意見なし。